

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	病児・病後児保育事業	会計名称	一般会計		担当課	子育て支援課	
		予算科目	3 款 2 項 1 目	事業番号	1520	所属長名	米湊明弘
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	太森真喜恵	
法令根拠等	児童福祉法第6条の3第13項・伊予市病児・病後児保育事業実施要綱				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 次代を担う子供たちの育成支援					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	総合計画の政策を達成するため、次代を担う子どもたちの育成支援を推進する。						
事業の対象	伊予市内在住か又は市内保育所等利用の生後6ヶ月から小学6年生までの病児又は病後児の児童で、医師連絡表において入院の必要が無い児童			事業の目的	病児又はけがを有する児童の保護者が勤務等により当該児童を保育することが困難である場合に、その児童を一時的に保育することで安心して子育てができる環境の整備を図る。		
事業の内容 (整備内容)	病児または病後児児童を一時的に保育する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	インフルエンザ流行期には、定員を超えて預かれないケースがいた。感染症のケースが多い場合は、隔離室が3室なので、預かれるケース数に限りがあることを、利用保護者にご理解いただくよう説明した。新型コロナウイルス感染症防止のため、研修が未実施となった。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	6,372	8,452	0	0	0	5,800	利用人数	人	786	700	347	675
財源内訳												
国庫支出金	1,705	2,365	0	0	0	1,575						
県支出金	1,705	2,365	0	0	0	1,575						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	1,256	1,200	0	0	0	1,199						
一般財源	1,706	2,522	0	0	0	1,451						
職員の人工(にんく)数	0.15	0.05				0.05						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	7,569	8,852				6,200						
主な実施主体	直接実施 (嘱託職員1人を含む)		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		協力医療機関応急対応業務等委託料(457千円)							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	5年間の合計		
					8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	40,000		
成果指標	指標	利用人数	単位	⇒	区分年度	前 年度	1 年度	2 年度	目標 毎 年度			
			人		目標	700	700	700	700			
	指標設定の考え方	本事業者は、利用者を対象とする支援事業であることから利用者の数を指標とする。			実績	786	675					
	指標で表せない効果	市内で本事業を実施することで、保護者等が安心して働ける環境作りに貢献することができた。										

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)											
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	5	合計点が	A	事業成果・工夫した点	利用人数に合わせて、パート職員の勤務を変更する等、無駄のないように対応をした。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	5						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	3	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	繁忙期は、定員を越えるため、預かれない場合があった。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	5	合計点が			A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 国が示す子ども・子育て支援事業の位置付けであり、利用者のニーズも高く必要不可欠な事業である。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	5						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	5	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所属長の課題認識	急な傷病等により看護が難しく一時的に保育・看護を実施する本事業は、親の負担軽減など、継続する必要がある。なお、定期的にインフルエンザ等の感染により、全ての児童の受入れが困難な状況があるため、的確な部屋割り・感染区域の確保など受け入れ態勢を改善について検討する必要がある。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4								
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			行政評価委員会委員選定事業 やむを得ず看護できない親に代わり一時的な保育・看護を提供する本事業は、安心して子育てできる環境整備において必要な事業であり、継続と判断する。なお、協力医療機関が1箇所のため、休診日はお迎えサービスの利用ができない等弊害が生じているため、今後改善方法等について検討する必要がある。	
			<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数の実績は多い方がよいのか、少ない方がよいのか。事業の目的と成果指標の設定の関連性が気になる。 ・目標値700人が事業の目的を達成するものなのか、そうでないのかの判断が難しい。 ・定員10人が市民ニーズをどのくらい満たしているのか。10人に対して毎日どのくらいのニーズがあるのか。この点を検証できると、より良い効果測定ができる。 ・病気の子供や働く親を支援するための重要な施策である。大幅な拡充は難しいだろうが、ぜひ継続してもらいたい。 ・広域連携を考える際には、親の勤務先と利用に対するニーズの相関関係をリサーチしてもらいたい。 ・この事業を今後も継続していける体力が伊予市にあるのか。多くの関係者が病児・病後児保育の趣旨を理解し、協力してもらっている環境を引き続き大切にしてもらいたい。
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄 外部評価の意見を踏まえ、成果指標について見直しを行うこと。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	